

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2974300093
法人名	株式会社 エース
事業所名	グループホーム 太陽十津川折立ちの郷
所在地	奈良県吉野郡十津川村折立364番地の1 (電話)0746-64-0564
評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地ソメカワビル202号
訪問調査日	平成21年4月28日

【情報提供票より】(21年4月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円	
敷金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有(150,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無○	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 77.2 歳	最低 53 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中川医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、奈良県の最南端、広大な十津川村の中で唯一のグループホームで、併設の訪問介護、介護タクシー、短期入所に続き今年、認知症対応の通所介護も開始され、山村の高齢者やその家族の要望に対応すべく運営者、管理者、職員が一丸となって頑張っている。家族の希望で即入居される利用者が多いため当初は混乱もあるが、職員の辛抱強く、強制しない対応で徐々に落ち付かれ、家族といふような日常生活を送られている。空気が旨い、食事は家庭的、ゆったり、のんびりしたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価の意義の理解と活用については、評価結果を基に週1回の会議が開催されるようになり職員の意見も取り上げられているようだが、自己評価票作成に非常勤職員の意見の反映は少ない。職員を育てる取り組みについては、会議の中で研修も行っているが、運営に必要な研修だけでなく職員の段階的な研修を計画的に行われることが望まれる。介護計画書の作成及び見直しについては改善されている。防災対策については、防災訓練が実施され指摘点も直ちに改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成にあたり、一連の過程を全職員で取り組むことでケアの振り返りや見直しなど合意形成ができると思われるので、非常勤職員も共に取り組まれることが望ましい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、村役場職員や民生委員らの参加を得て行われている。会議後行われた防災訓練で指摘されたことは素早く改善されている。役場や地域と良い関係が出来きているので、もう少し開催回数を増やし忌憚のない意見交換が出来るように期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が意見・苦情を述べやすい環境を作り、意見があれば早い対応を心がけている。4月から始める通所介護開設にあたり家族アンケートで意見を聴取している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームとして地域へ登録し、日常的な付き合いは勿論のこと、地域の行事にも利用者と共に参加している。また高齢化の進んだ過疎の村にあつて事業所職員の参加は、大変歓迎されている。
重点項目④	

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間尊重を基本に、家庭的な環境と地域住民との交流を通して、利用者と家族に安心と希望のある生活の実現をめざします」と事業所独自の理念を作っている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	週1回行なわれる運営会議やミーティングで話し合うことにより理念を共有し、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして地域へ登録し、日々の挨拶や回覧板の受け渡しなど日常的な付き合いのほか、地域で行なわれる季節ごとの行事に利用者と共に参加したり、お宮さんの修理、掃除、草引きなどの手伝い、また事業所の他のサービスを通じて地域の住民と自然の交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果については運営者、管理者が改善に取り組み、職員にも週1回のミーティングを通じて話し合いがされている。	○	自己評価作成にあたり、一連の過程を全職員で取り組むことで、ケアの振り返りや見直しなど職員の合意形成ができると思われるので、非常勤職員も参加して作成されることが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年6月に運営推進会議が、役場住民課職員、民生委員、家族、運営者、管理者、介護支援専門員、看護師の参加のもと開催された。ホームの状況説明、新たに始まる通所介護について、ボランティアの要請などが話し合われた。その後十津川村職員、消防団員が参加して防災訓練が行なわれている。		平成19年の「運営推進会議要綱」には、概ね2～3ヶ月に1回とあり参加者の都合など難しい面もあると思われるが、村役場や地域との良い関係が出来ているので、開催回数を増やされることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	短期入所、通所介護などについて役場担当者との話し合いが行なわれ、協力も得ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には体調や薬のなどを報告している。毎月の請求書、領収書送付時にも近況を報告し写真を同封、電話でも連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情を処理するために講ずる措置の概要」を定め、苦情に対しては出来るだけ早い改善を心がけている。また意見が述べやすいように、外部の苦情申し立て機関を契約書に明記している。通所介護開設にあたり家族アンケートを実施し、意見の把握を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2名の職員が離職しているが、常に職員が見守りや声掛けをし、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	週1回のミーティングの中で研修を行い、併設の訪問介護サービスの研修に参加している。レクリエーション担当者養成のため他事業所への研修を計画している。	○	事業所の運営に必要な研修だけでなく、職員の力量にあった段階的な研修が計画的に行なわれることが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所に職員研修を依頼しており、県内の同規模のグループホームとも交流がある。時折会って情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が困り果てての利用者ばかりで、入所前に関わりを持つことはないが、職員の辛抱強い介助で利用者が早く馴染めるように対応している。4月から通所介護サービスが始まるので、入所前の馴染みの関係も徐々に出来てくると思われる。		村民にグループホームの事業内容があまり知られていないことや、経費の面などで、困り果てた家族だけの「駆け込み寺」的存在となっており、入所前の馴染みの関係は持ちにくい。それだけに利用者が馴染まれるまでは、職員の苦労も大きいと察せられる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物を干したり、畳んだり、野菜の皮むきや根っこの掃除などの手伝いや、野菜の育て方や、昔のことを教わるなど、本人の得意分野で力が発揮できるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話のなかで思いや意向の把握に努めているが、家族来訪時には、過去の生活歴、意向、希望などを聞いて、出来るだけ利用者の思いに沿うように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1回のミーティング時にケアカンファレンスを行い、家族や職員、また医師の意見も反映させた介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々記入している介護記録と、ミーティングを基に、ほぼ3ヶ月ごとにモニタリングして評価を行い、計画書の見直しをしている。変化時にはその都度行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助を行なうことがあるが、無料で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医とは常に連絡を取り合い、指示を受けて、状態によっては通院している。認知症専門医療機関受診のため片道2時間半掛けて診察に行っている。歯科医師が月2回往診し、口腔ケアの指導も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における看取り指針」を定め、同意書が作成されている。利用者や家族の意向が記入された看取りのケアプランがあり、家族、医師、看護師、職員が方針を共有し、看取り介護の体制が整っている。すでに2名の方を看取っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つけない言葉掛けやプライバシーに配慮した介護を心がけている。「個人情報保護方針」を定め、「利用目的通知及び提供に関する同意書」を作成している。職員研修も行なっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に問いかけることで思いを把握し、支援している。時には昼頃まで寝ている利用者や、ご飯の時間だけ起きてくる利用者があるなど強制されることなく自由に過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に育てた作物を料理に使ったり、食材の下準備のお手伝いを頼むなど利用者が楽しんで出来るように支援している。季節の食材や地の野菜を使い、味付けも良い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな決まりはあるが、利用者の気分や汚染など状態に応じて柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔の歌を歌ったり、昔話を聞かせてもらったり、畑仕事を手伝ってもらうなど得意なことや生活歴を生かし、楽しみにつながる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や畑に出かけたり花見に行くなどの支援をしている。時々温泉の足湯に出かけている。		街中のグループホームと違い、利用者はのんびりと自由に過しているだけに、外出支援は少ない。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所前は急な坂になっており、徘徊する利用者がいて捜索騒ぎになるなどのことがあり、玄関に鍵は掛けられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	村職員、消防団員参加のもとに避難訓練が行なわれ、その時裏出口の危険性を指摘され、直ちに手すりを取り付けられた。火災報知器、煙探知器が設置され、火災通報装置は、調査中に村役場(消防署も役場が兼ねる)に連絡を取り、対応された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師免許を持った職員がいて栄養バランスや調理方法に注意が払われている。毎食汁物をつけて水分摂取に注意している。	○	業務日誌(個人記録)には食事の摂取量や水分量の記載欄があるが、記入漏れの日が多い。記載欄を活用し、文章での記入は特記だけにされてはどうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、利用者がそれぞれに集えるようにソファやホームコタツがあり、季節の花が飾られている。四つ身の懐かしい柄の着物が壁飾りに使われていた。		リハビリに使える長い廊下に荷物が置かれているのが惜しい気がする。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台とトイレが設置され、利用者は気兼ねなく使えるようになっている。使い慣れた物の持ち込みは自由であるが、持ち込まれる人は無く、事業所が準備した物で間に合わせている。利用者の希望で畳み敷きの部屋が多い。		